令和元年度

事　業　概　要

福岡市食肉衛生検査所
福岡市東区東浜二丁目８５番地１４
〒812-0055　TEL（092）651-3404
FAX（092）651-9015

目　次

第Ⅰ章　総説　　ページ

1 食肉衛生検査所の沿革……1
2 検査所の概要……3
3 組織・機構……4
4 勤務体制……4
5 食肉衛生検査所の事務分掌……4
6 手数料……4
7 主要検査機器……5
8 と畜場の概要……6

第Ⅱ章　事業概要

1 概況……8
2 疾病の排除……10
(1) と畜検査頭数……10
ア 年度別と畜検査頭数
イ 月別と畜検査頭数

(2) 病畜・切迫とさつ……11
ア 年度別病畜・切迫とさつ検査頭数
イ 月別病畜検査頭数

(3) 処分状況……12
ア 年度別処分状況
イ 処分状況内訳
ウ 畜種別疾病別一部廃棄件数
エ 畜種別主要臓器別一部廃棄内訳
オ 畜種別一部廃棄状況
カ 年度別全部廃棄件数

(4) 試験室検査……25
ア 病理検査
イ 微生物検査
ウ 理化学検査

(5) 伝達性海綿状脳症(TSE)スクリーニング検査……29

3 市場内の衛生対策……30
4 残留有害物質の排除……30
5 輸出肉衛生証明……33

第Ⅲ章　調査・研究

1 調査・研究状況……35

第Ⅰ章　総　説

1 食肉衛生検査所の沿革

昭和 3年 4月	明治 42 年開設の筑紫郡堅粕町立屠場が市町村合併により，福岡市立屠場となる。
昭和25年 4月	屠場法改正により，と畜検査業務が県から市に移管，同時に，と畜検査員の身分も県から市に移管される。
昭和28年 8月	と畜場法が制定され，従前の屠場法が廃止される。
昭和34年 9月	中央卸売市場法にもとづく食肉市場が箱崎七丁目に設置される。旧市立と畜場は廃止され，新設のと畜場は食肉市場と共に，産業局中央卸売市場が統轄する。 と畜検査は厚生局環境衛生課の所管となり，と畜場の管理と衛生検査，指導業務の責任分担制となる。と畜検査員 4 名。
昭和35年 3月	福岡市と畜場法施行細則施行。
昭和36年 4月	環境衛生課内に係長級の検査長が配置される。
昭和37年11月	衛生局環境衛生課の現場事務所として，食肉衛生検査所を設置。 所長以下と畜検査員 5 名。
昭和39年 3月	食肉市場敷地内に，検査所庁舎完成。鉄筋コンクリート 2 階建。総面積 320 ㎡，病理･細菌検査室を有する。
昭和39年 4月	日本脳炎流行予測調査事業として，市場入荷豚の HI 抗体調査開始。
昭和40年 4月	と畜検査員1名，事務員1名が増員配置され，所長以下7名。
昭和48年 4月	機構改革により，食肉衛生検査所は食品衛生検査所に名称変更されて，課に昇格し，食肉係と鮮魚青果係の 2 係となる。食肉係は所長以下 11 名。
昭和49年12月	と畜検査員 2 名が増員され，所長以下 13 名。
昭和53年 4月	機構改革により，1 課 1 係制として食肉衛生検査所となる。所長以下 13 名。
昭和56年 4月	残留抗菌性物質検査を開始。
昭和60年 4月	抗菌性物質の精密検査担当主査を配置。検査とその後の措置及び処分並びに指導の強化を図る。所長以下 14 名。
昭和62年 3月	検査所庁舎を増改築し，3階建，総面積673㎡に拡充整備を図る。 残留農薬の検査を開始する。
平成 3年 4月	精密検査担当主査を専門化し，理化学検査担当主査及び病理･微生物検査担当主査を配置。また，食鳥検査担当主査と担当者 1 名を配置。所長以下 16 名。
平成 4年 4月	機構改革により，食鳥検査担当主査制は食鳥検査係制となり，1課2係制となる。 また，食鳥検査担当者 1 名の増員(計 2 名)により所長以下 17 名となる。

平成 5年 4月	病理･微生物検査担当主査を病理検査担当と微生物検査担当に分け主査を配置。また，週休 2 日制対応のため，と畜検査員 1 名の増員により所長以下 18 名となる。
平成 6年 1月	都市計画道路箱崎ふ頭粕屋線街路整備に伴い，検査所を食肉市場敷地内に新築移転。鉄骨造3階建，総面積914㎡。
平成 6年12月	大規模食鳥処理場の市外移転に伴い，食鳥検査係制は食鳥検査担当主査制となり，再び 1 課 1 係制となる。また，食鳥検査担当者は 2 名の減員により所長以下 16 名となる。
平成 7年 4月	機構改革により，食鳥検査担当主査が廃止され所長以下 15 名となる。 日本脳炎流行予測調査事業を衛生試験所に移管する。
平成 9年 4月	機構改革に伴い，食肉衛生検査所の事務分担等の見直しが行われる。また，病原微生物対策選任主査を新設。所長以下 15 名。
平成12年 4月	と畜場・食肉市場は，ともに東区東浜二丁目に新築移転し，福岡市中央卸売市場臨海市場となる。それに伴い，食肉衛生検査所は新市場管理厚生棟の 3 階（総面積 962 ㎡）に移転。
平成14年 4月	食肉係を食肉第 1 係，微生物検査担当主査及び病原微生物対策専任主査を統合し食肉第 2 係を新設し，1 課 2 係制となる。BSE 検査に対応するため，と畜検査員を 1 名増員するとともに，事務職に替えてと畜検査員を配置。所長以下 16 名。
平成15年 4月	係の名称を食肉第 1 係・食肉第 2 係から食肉検査第 1 係・食肉検査第 2 係へ係名称変更。夜間病畜検査員（嘱託職員）を廃止し，昼間のと畜検査員（嘱託職員）を配置。
平成17年 4月	保健福祉局の機構改革により，と畜検査員を 1 名減員。所長以下 15 名。
平成19年 4月	と畜場の名称変更により福岡市中央卸売市場食肉市場（生産施設）となる。
平成22年 3月	と畜場及び併設食肉処理施設が対マカオ輸出食肉取扱施設に選定される。
平成24年 4月	勤務時間を A 勤務（午前 8 時 00 分～午後 4 時 30 分）及び B 勤務（午前 10 時 00 分～午後 6 時 30 分）のシフト勤務制へ変更。
平成25年 4月	機構改革により，食肉検査第 1 係・食肉検査第 2 係の 1 課 2 係体制から，病理検査係・微生物検査係・理化学検査係の 1 課 3 係体制となる。
平成25年12月	と畜場及び併設食肉処理施設が対タイ輸出食肉取扱施設に認定される。
平成27年10月	と畜場及び併設食肉処理施設が対ミャンマー輸出食肉取扱施設に認定される。
平成28年 6月	と畜場及び併設食肉処理施設が対ベトナム輸出食肉取扱施設に登録される。

2 検査所の概要

(1) 所在地
〒812-0055
福岡市東区東浜二丁目８５番地１４

TEL 092-651-3404
FAX 092-651-9015

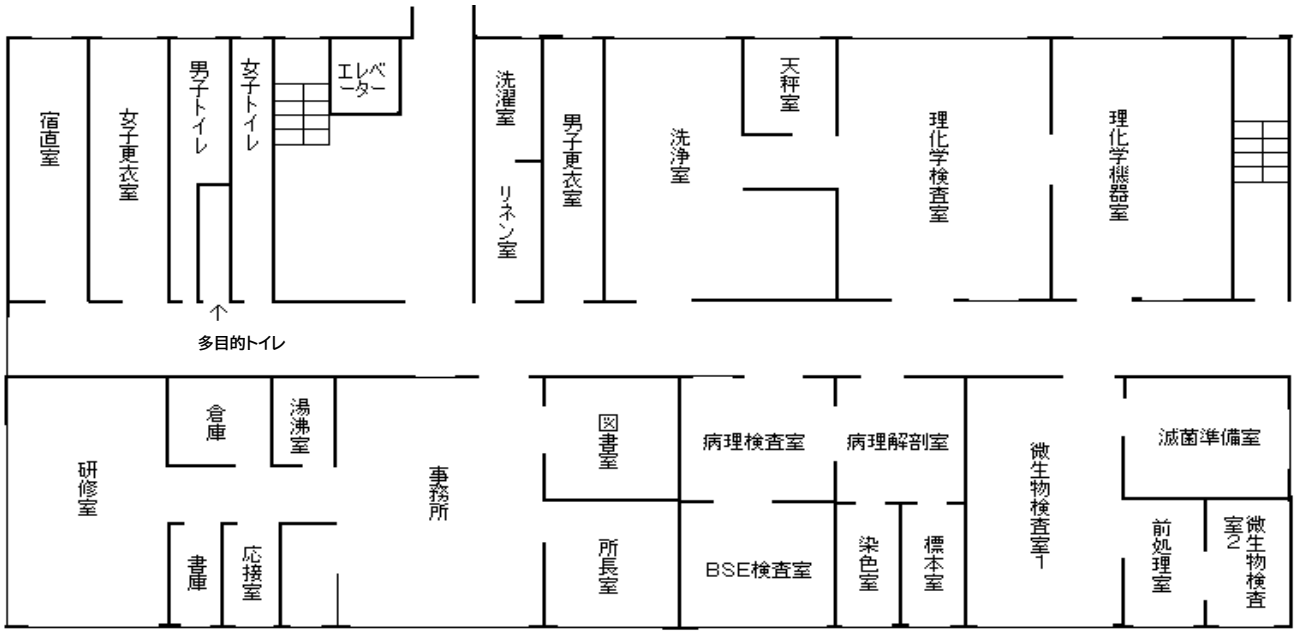
(2) 庁舎建設年月日
平成 12 年 4 月 1 日

(3) 庁舎の所有者
福岡市農林水産局中央卸売市場

(4) 庁舎の構造・面積(単位 ㎡)
管理厚生棟 3 階

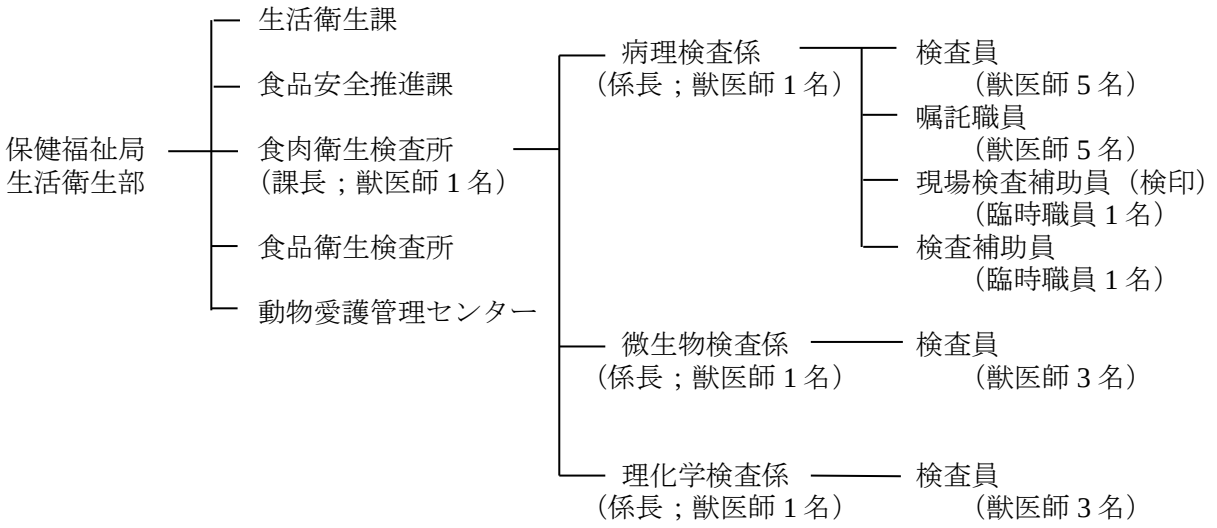
総面積		962.00
事務室関係		550.52
	事務室	119.47
	所長室	28.00
	研修室	62.87
	その他	340.18
微生物検査関係		123.07
	微生物検査室 1	60.20
	微生物検査室 2	18.85
	前処理室	17.50
	滅菌準備室	26.52
理化学検査関係		119.01
	理化学検査室	66.85
	理化学機器室	39.42
	天秤室	10.15
	その他	2.59
病理検査関係		92.40
	病理検査室	32.20
	病理解剖室	32.20
	標本包埋室	14.00
	染色室	14.00
BSE 検査室		28.00
検査関係　その他		49.00

(5) 庁舎の平面図



3 組織・機構

令和 2 年 3 月末現在



4 勤務体制

(1) 勤務時間（嘱託員を除く。） A 午前 8 時 00 分～午後 4 時 30 分
B 午前 10 時 00 分～午後 6 時 30 分
（週 38 時間 45 分）

(2) 勤務日 月曜日～金曜日及び臨時開場日
（国民の祝日及び 12 月 29 日～1 月 4 日を除く。）

5 食肉衛生検査所の事務分掌 （福岡市事務分掌規則から抜粋）

食肉衛生検査所の所掌する事務は，次のとおりとする。
(1) 食肉となる獣畜及び食肉等の検査及び処分に関すること。
(2) 食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）及びと畜場法（昭和 28 年法律第 114 号）に基づく衛生上の指導，監視，措置等に関すること。
(3) その他特に命じる事項に関すること。

6 手数料

(1) と畜検査手数料（平成 28 年 4 月改定）
・大動物（牛・馬） 600 円
・小動物（とく・豚・めん山羊） 300 円

(2)その他の証明書の交付手数料 300 円

7 主要検査機器

令和 2 年 3 月末現在

微生物関係	数量
顕微鏡	2
実体顕微鏡	2
蛍光顕微鏡	1
倒立顕微鏡	1
顕微鏡撮影装置	2
遠心分離機	3
インキュベーター	3
オートクレーブ	3
振とう培養器	1
ストマッカー	1
自動乾熱滅菌器	1
遺伝子増幅システム	3
フリーザー	2
ゲル撮影装置	2
電子天秤	3
恒温水槽	1
細胞破砕機	1
冷蔵庫	4
高速冷却遠心機	1
安全キャビネット	1

理化学関係	数量
液体クロマトグラフ質量分析計	1
分光光度計	1
血液生化学自動分析装置	1
全自動血球計数装置	1
pH メーター	1
ドラフトチャンバー	1
超音波洗浄器	2
遠心分離機	3
インキュベーター	2
振とう器	2
超高速ホモジナイザー	4
製氷機	1
電子天秤	3
エバポレーター	4
冷却水循環装置	3
水分測定器	1
電気炉（マッフル炉）	1

病理関係	数量
三眼顕微鏡	2
顕微鏡撮影装置	1
パラフィン溶融器	1
パラフィン伸展器	2
自動包埋装置	1
滑走式ミクロトーム	1
回転式ミクロトーム	2
自動包埋ブロック作製装置	1
自動染色装置	1
-20 ℃フリーザー	1
ドラフトチャンバー	2
電子天秤	1
インキュベーター	1
マイクロプレートウォッシャー	1

BSE 関係	数量
マイクロプレートリーダー	1
マイクロプレートウォッシャー	2
細胞破砕機	2
微量冷却高速遠心機	1
遠心分離機	1
インキュベーター	1
ブロックインキュベーター	2
恒温水槽	2
安全キャビネット	2
電子天秤	3
オートクレーブ	2
保冷庫	2
超音波洗浄機	2
分光光度計	1

8 と畜場の概要

令和 2 年 3 月末現在

(1) と畜場番号　　福岡市 1

(2) 名　　称　　福岡市中央卸売市場食肉市場（生産施設）

(3) 設 置 者　　福岡食肉市場株式会社　　代表取締役　　吉田　満

(4) 所 在 地　　福岡市東区東浜二丁目８５番地１４
〒 812-0055
TEL 092-641-6131

(5) 規　　模
① 敷地面積　　42,305 ㎡
② 建築面積　　16,534 ㎡
③ けい留施設　　大動物　1,096 ㎡
小動物　818 ㎡
④ 処理能力　　大動物　120 頭／日
小動物　600 頭／日

(6) 付属施設
① 排水処理施設
処理方式　　回転円板方式＋加圧浮上方式
② 脱臭処理施設
処理方式　　酸・アルカリ脱臭方式

(7) 福岡市中央卸売市場食肉市場（生産施設）開場日数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
開場日数	244	244	246	242	243	245	244

令和元年度臨時開場日　4 月 30 日，5 月 2 日，5 月 6 日，8 月 15 日，12 月 7 日，12 月 28 日，1 月 5 日

第Ⅱ章　事 業 概 要

1 概況

当検査所は，安全で衛生的な食肉を確保するため福岡市中央卸売市場食肉市場において，「疾病の排除」，「と畜場内の微生物コントロール」及び「残留有害物質の排除」の 3 つを検査体制の柱として，業務を実施している。

(1) 疾病の排除

ア　と畜検査頭数

と畜検査頭数は 152,251 頭で前年度より 4,719 頭(3.2%)増加した。畜種別内訳は，牛が 23,341 頭で前年度に比べ 29 頭(0.1%)の増加，とく（12 ヶ月齢未満の牛）が 12 頭で 5 頭(29.4%)の減少，豚が 128,898 頭で 4,695 頭(3.8%)の増加であった。

イ　病畜・切迫と殺

病畜として検査した獣畜は 543 頭で前年度に比べ 86 頭(13.7%)減少した。畜種内訳は，牛が 539 頭で前年度に比べ 79 頭(12.8%)の減少，とくが 4 頭で 7 頭(63.6%)の減少であった。

切迫と殺獣畜の搬入はなかった。

ウ　処分状況

と殺解体禁止頭数は 41 頭で，畜種別内訳は，牛 20 頭，豚 21 頭であった。と殺解体禁止理由は，牛では，高度の黄疸が 8 頭，尿毒症が 3 頭，熱性諸症 1 頭，と殺前死亡 8 頭であった。豚では，豚丹毒 6 頭，と殺前死亡 15 頭であった。

全部廃棄頭数は 177 頭で，畜種別内訳は牛 83 頭，豚 94 頭であった。全部廃棄理由は，牛では，牛白血病 59 頭，敗血症 21 頭，白血病 1 頭，膿毒症 1 頭，高度の水腫 1 頭であった。豚では，敗血症 47 頭，膿毒症 38 頭，高度の黄疸 5 頭，豚丹毒 2 頭，高度の水腫 1 頭，白血病 1 頭であった。

また，一部廃棄頭数は 113,968 頭で，一部廃棄件数は 179,083 件であった。

エ　精密検査

精密検査実施頭数は 201 頭で，畜種別内訳は牛が 87 頭，豚が 114 頭であった。病類別は，牛では，牛白血病 60 頭，敗血症 23 頭，全身性腫瘍 2 頭，膿毒症 1 頭，高度の水腫 1 頭，中毒諸症 1 頭の精密検査を実施した。豚では，敗血症 58 頭，膿毒症 38 頭，豚丹毒 9 頭，高度の黄疸 7 頭，高度の水腫 1 頭，白血病 1 頭，抗酸菌症 1 頭の精密検査を実施した。

オ　伝達性海綿状脳症(TSE)スクリーニング検査

生後 24 か月齢以上の牛のうち、生体検査において，原因不明の運動障害，知覚障害，反射異常，意識障害等の何らかの神経症状又は全身症状（事故による骨折，関節炎，熱射病等による起立不能等症状の原因が明らかな牛は除く。）を示す牛を対象に検査を実施した。令和元年度の検査頭数は 11 頭で，結果は全て陰性であった。

(2) 市場内衛生対策関連検査

と畜場内の微生物コントロールのために実施した細菌検査等は，枝肉のふき取り検査が計 842 件であり，牛枝肉から腸管出血性大腸菌 1 件，豚枝肉からカンピロバクターを 12 件検出した。

また，牛枝肉のグリア繊維性酸性タンパク(GFAP)残留量調査を80件実施し，GFAPは検出されなかった。

と畜場内の衛生監視に用いるチェックリストを適宜見直し，市場内設備及びと殺解体作業等のハード，ソフト両面について衛生監視を計252回実施し，指摘指導を行った。指摘箇所が改善されたものについては，市場の衛生管理担当者から改善報告を受けた。

これらの検査結果をもとに衛生講習会や連絡会議を通じて市場内関係者に伝達し，衛生意識の向上を図った。

(3) 残留有害物質の排除

ア　残留動物用医薬品検査

薬剤残留の可能性が想定される獣畜等（病畜，精密検査畜，起立不能畜，発育不良畜など）を対象に「自主検査」として牛 562 頭，とく 11 頭，繁殖用豚 50 頭，肉用豚 680 頭の計 1,303 頭についてスクリーニング検査を実施した。そのうち陽性を示した 25 頭(牛 19 頭，とく 1 頭，肉用豚 5 頭)について，機器分析又は分別推定法による検査を実施した。この結果，牛 2 頭及び肉用豚 2 頭の筋肉並びに牛 11 頭，とく 1 頭及び肉用豚 2 頭の腎臓から，食品衛生法における残留基準値を超える動物用医薬品が検出されたため，同法に基づき関連部局への通知等の措置を行った。

イ　残留有害物質モニタリング検査

厚生労働省通知に基づき，健康畜 40 頭(牛 20 頭，豚 20 頭)を対象に，残留有害物質のモニタリング検査を実施した。結果は豚 1 頭の筋肉及び豚 1 頭の腎臓から，食品衛生法における残留基準値を超える動物用医薬品が検出されたため，同法及び同通知に基づき関連部局への通知等の措置を行った。

(4) その他

ア　フィードバック(と畜検査データ還元)事業

と畜検査結果を家畜の飼養管理等の指導へ利用してもらうため，福岡県家畜保健衛生所に対し県内出荷者のと畜検査データの還元を行った。

また，出荷頭数の多い出荷者及び要望があった開業獣医師にも同様にと畜検査データの還元を行った(延べ 132 件)。

イ　食品衛生法に基づく検査等の業務管理

検査等の信頼性を確保するため，「福岡市の食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領」に基づき，内部・外部精度管理及び内部点検を実施した。

ウ　大学等研究機関への協力

大学等研究機関からの検体の採材依頼があった場合，福岡食肉市場株式会社（当市場における卸会社）の了解を得たうえで，検体採材に協力した。

エ　市民啓発事業

食肉市場の見学者に対し，食肉衛生検査所の業務説明を行うとともに，食の安全安心についてリスクコミュニケーションを行った。見学者の受け入れは年 24 回行い，計 515 名の参加者があった。

オ　輸出肉衛生証明

本市と畜場でと殺解体され，併設食肉処理場で処理された食肉について，以下の国・地域に対して輸出肉衛生証明書の交付を行った。

・香港
・マカオ
・タイ
・ミャンマー
・台湾
・ベトナム

カ　職員研修

当検査所職員を対象に以下の研修を実施した。

・新人研修（現場検査，関係法規，試験室検査法に関する各研修）
・事例研修（各臓器の病変，精密検査等の重要・希少症例等）

２ 疾病の排除

(1) と畜検査頭数

ア　年度別と畜検査頭数

年度	計	牛	とく	豚	馬	めん山羊
H25	161,421	24,218	20	137,183	-	-
H26	154,935	23,706	48	131,181	-	-
H27	161,028	23,463	36	137,529	-	-
H28	154,612	21,113	21	133,478	-	-
H29	154,563	21,722	15	132,826	-	-
H30	147,532	23,312	17	124,203	-	-
R1	152,251	23,341	12	128,898	-	-

イ　月別と畜検査頭数

月	計	牛	とく	豚
計	152,251	23,341	12	128,898
4	12,991	2,251	1	10,739
5	11,994	1,860	-	10,134
6	11,334	1,830	-	9,504
7	13,427	2,446	3	10,978
8	11,142	1,738	-	9,404
9	12,129	1,709	-	10,420
10	13,686	1,971	1	11,714
11	13,945	2,474	3	11,468
12	13,183	1,903	1	11,279
1	13,398	1,884	2	11,512
2	12,249	1,696	1	10,552
3	12,773	1,579	-	11,194

(2) 病畜・切迫と殺

ア　年度別病畜・切迫と殺検査頭数

年度	総数	病畜						切迫と殺					
		計	牛	とく	豚	馬	めん山羊	計	牛	とく	豚	馬	めん山羊
H25	380	380	373	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H26	626	626	609	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H27	787	787	765	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H28	719	719	704	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H29	615	615	607	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H30	629	629	618	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R1	543	543	539	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-

イ　月別病畜検査頭数

月	計	牛	とく	豚
計	543	539	4	-
4	49	48	1	-
5	30	30	-	-
6	41	41	-	-
7	41	41	-	-
8	49	49	-	-
9	52	52	-	-
10	82	81	1	-
11	35	34	1	-
12	33	33	-	-
1	46	45	1	-
2	47	47	-	-
3	38	38	-	-

(3) 処分状況

ア　年度別処分状況

年度	検査頭数	と殺解体禁止	処分実頭数			一部廃棄処分件数		
			計	全部廃棄	一部廃棄	計	と肉	内臓
H25	161,421	40	123,354 (76.41)	86 (0.05)	123,268 (76.36)	185,835	9,735	176,100
H26	154,935	47	108,146 (69.80)	192 (0.12)	107,954 (69.67)	159,731	8,144	151,587
H27	161,028	43	111,685 (69.36)	184 (0.11)	111,501 (69.24)	164,430	7,843	156,587
H28	154,612	53	101,043 (65.35)	232 (0.15)	100,811 (65.20)	146,873	6,466	140,407
H29	154,563	40	104,981 (67.92)	162 (0.10)	104,834 (67.80)	154,275	5,860	148,415
H30	147,532	31	109,349 (74.12)	163 (0.11)	109,186 (74.01)	168,457	9,417	159,040
R1	152,251	41	114,145 (74.97)	177 (0.12)	113,968 (74.86)	179,083	11,389	167,694

廃棄率(%)=廃棄処分実頭数／検査頭数×100

イ　処分状況内訳

		処分実頭数	病類別頭数																
			総数	細菌病				寄生虫病			膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症	炎症	変性	その他
				豚丹毒	サルモネラ症	放線菌病	その他	のう虫	ジストマ	その他										
計	禁止	41	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全部廃棄	177	177	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一部廃棄	113,968	129,865	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
牛	禁止	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全部廃棄	83	83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一部廃棄	15,667	23,952	-	-	14	-	-	207	-	-	-	-	-	2,155	-	-	11,066	2,266	8,235
とく	禁止	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全部廃棄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一部廃棄	12	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	11	3	5
豚	禁止	21	21	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
	全部廃棄	94	94	2	-	-	-	-	-	-	387	47	-	5	1	-	-	-	-	1
	一部廃棄	98,289	105,892	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	243	9	-	92,994	4,021	8,624

ウ　畜種別疾病別一部廃棄件数

畜種	牛	とく	豚
検査頭数	23,341	12	128,898
一部廃棄実頭数	15,667	12	98,289
廃棄率（%）	67.12	100.00	76.25

疾病件数　総計			29,143	36	151,963
	部位	疾病名称	牛	とく	豚
呼吸器系	肺	肺気腫	933	0	37
		肺炎	620	2	317
		カタル性肺炎	338	2	0
		線維素性肺炎	1	0	0
		胸膜炎	1,136	1	7,260
		肺膿瘍	95	0	898
		肺出血	73	0	37
		肺包虫症	1	0	0
		肺水腫	4	0	2
		肺色素沈着	4	0	0
		肺の黄疸	0	0	1
		ＭＰＳ（軽度）	0	0	32,760
		ＭＰＳ（中度）	0	0	3,527
		ＭＰＳ（重度）	0	0	539
		胸膜肺炎	0	0	1,247
		血液吸入肺	242	0	3,205
		異物吸入肺	143	0	3
		炎症産物汚染（肺）	62	0	30
		小　計	3,652	5	49,863
		疾病件数に占める割合（%）	12.53	13.89	32.81

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
呼吸器系	横隔膜	横隔膜炎	7	0	2,087
		サガリ炎症	29	0	0
		横隔膜炎１／２	16	0	0
		横隔膜膿瘍	14	0	3
		サガリ膿瘍	9	0	0
		横隔膜膿瘍１／２	151	0	0
		横隔膜変性	5	0	0
		サガリ変性	42	0	0
		横隔膜変性１／２	8	0	0
		サガリ色素沈着	3	0	0
		横隔膜出血	30	0	0
		サガリ出血	204	0	0
		横隔膜出血１／２	4	0	0
		横隔膜水腫	10	0	0
		サガリ水腫	140	0	0
		横隔膜水腫１／２	15	0	0
		横隔膜の腫瘍	1	0	0
		横隔膜の黄疸	0	0	1
		炎症産物汚染(横隔膜)	5	0	50
		炎症産物汚染(サガリ)	108	0	0
		炎症産物汚染横隔膜(1/2)	4	0	0
		小　計	805	－	2,141
		疾病件数に占める割合（%）	2.76	－	1.41
		中　計	4,457	5	52,004
		疾病件数に占める割合（%）	15.29	13.89	34.22

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
循環器系	脾臓	脾炎	2	0	0
		脾包膜炎	7	0	0
		脾うっ血	4	0	0
		脾梗塞	1	0	0
		小　計	14	−	−
		疾病件数に占める割合（%）	0.05	−	−
	リンパ節	臓器リンパ節膿瘍	1	0	0
		躯幹リンパ節炎	1	0	1
		躯幹リンパ節膿瘍	1	0	129
		躯幹リンパ節色素沈着	0	0	1
		躯幹リンパ節の腫瘍	1	0	4
		躯幹リンパ節乾酪変性	0	0	1
		頭部リンパ節乾酪変性	0	0	94
		頭部リンパ節膿瘍	0	0	108
		小　計	4	−	338
		疾病件数に占める割合（%）	0.01	−	0.22
	心臓	心外膜炎	594	3	7,005
		心内膜炎	6	0	5
		心筋炎	3	0	0
		心筋膿瘍	2	0	5
		心筋変性	11	0	27
		心色素沈着	36	0	1
		心筋出血	52	0	49
		心肥大	0	0	1
		心筋水腫	4	0	4
		心弁膜症	0	0	235
		炎症産物汚染（心臓）	51	0	42
		心冠脂肪水腫	25	0	0
		小　計	784	3	7,374
		疾病件数に占める割合（%）	2.69	8.33	4.85
		中　計	802	3	7,712
		疾病件数に占める割合（%）	2.75	8.33	5.07

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
消化器系	胃腸	小腸炎（胃腸全廃）	0	0	2,308
		大腸炎	41	0	0
		大腸炎（胃腸全廃）	0	0	1,092
		腸間膜脂肪壊死(胃腸)	47	0	0
		腸間膜脂肪壊死(大腸)	74	0	0
		腸間膜脂肪水腫(小大腸)	1	0	0
		腸間膜脂肪水腫(胃腸)	8	0	65
		腹膜炎	40	0	1,275
		胃炎	3	0	0
		胃炎（胃腸全廃）	0	0	6
		胃腸炎	3,366	11	1038
		腸気泡症	0	0	20
		腸捻転	0	0	1
		炎症産物汚染（胃腸）	41	0	9
		炎症産物汚染（胃）	1	0	0
		炎症産物汚染（小腸）	0	0	2
		炎症産物汚染（大腸）	1	0	0
		小　計	3,623	11	5,816
		疾病件数に占める割合（%）	12.43	30.56	3.83

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
消化器系	肝臓	肝蛭症	207	0	0
		胆管炎	976	0	0
		胆管炎１／２	1	0	0
		肝膿瘍	718	0	16
		肝出血	3,323	0	65
		肝出血１／２	2	0	0
		肝包膜炎	1,217	1	58,937
		肝包膜炎１／２	43	0	0
		鋸屑肝	1,008	0	0
		退色肝	291	2	2,818
		肝富脈斑	1,768	0	0
		肝硬変	4	0	5
		肝炎	769	3	424
		肝静脈炎	63	0	0
		肝静脈炎１／２	1	0	0
		肝色素沈着	42	0	0
		うっ血肝	210	1	927
		ニクヅク肝	12	0	1
		肝嚢胞	24	0	1
		肝包虫症	1	0	0
		肝臓の腫瘍	1	0	0
		脂肪肝	4	0	5
		肝臓の黄疸	0	0	1
		間質性肝炎	0	0	7,146
		肝線維症	0	0	52
		炎症産物汚染（肝臓）	7	0	45
		小　計	10,692	7	70,443
		疾病件数に占める割合（%）	36.69	19.44	46.36
	舌	舌炎	2	0	0
		舌膿瘍	3	0	1
		舌筋変性	1	0	0
		舌筋水腫	1	0	0
		舌放線菌病	12	0	0
		炎症産物汚染（舌）	3	0	0
		小　計	22	－	1
		疾病件数に占める割合（%）	0.08	－	－
	中　計		14,337	18	76,260
		疾病件数に占める割合（%）	49.20	50.00	50.18

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
泌尿生殖器系	腎臓	腎炎	849	1	4,318
		出血性腎炎	27	0	31
		慢性腎炎	2	0	0
		腎炎1/2	226	0	0
		出血性腎炎1/2	1	0	0
		腎周囲脂肪壊死	241	0	0
		腎周囲脂肪壊死1/2	165	0	0
		腎周囲脂肪水腫	8	0	2
		腎周囲脂肪水腫1/2	5	0	0
		腎膿瘍	40	0	16
		腎膿瘍1/2	39	0	0
		退色腎	0	0	3
		腎萎縮1/2	1	0	0
		水腎症	1	0	2
		腎結石	16	0	1
		腎結石1/2	12	0	0
		腎色素沈着	34	0	1
		腎梗塞	0	0	9
		腎嚢胞	194	0	984
		腎嚢胞1/2	180	0	0
		腎臓の腫瘍	0	0	1
		腎芽腫	0	0	2
		小　計	2,041	1	5,370
		疾病件数に占める割合（%）	7.00	2.78	3.53
	子宮・卵巣	卵巣の腫瘍	3	0	0
		子宮の腫瘍	1	0	0
		子宮内膜炎	4	0	0
		子宮蓄膿症	13	0	1
		妊娠子宮	53	0	1
		小　計	74	−	2
		疾病件数に占める割合（%）	0.25	−	−
	膀胱	膀胱炎	6	0	0
		膀胱結石	1	0	0
		小　計	7	−	−
		疾病件数に占める割合（%）	0.02	−	−
		中　計	2,122	1	5,372
		疾病件数に占める割合（%）	7.28	2.78	3.54

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
運動器系	筋肉	筋炎	26	0	4
		頭部筋炎	0	0	2
		テール筋炎	1	0	0
		筋膿瘍	44	0	480
		頭部筋膿瘍	8	0	340
		テール筋膿瘍	1	0	0
		筋変性	117	0	40
		頭部筋変性	3	0	8
		テール筋変性	1	0	0
		筋水腫	78	1	33
		頭部筋水腫	1	0	0
		筋出血	361	2	321
		頭部筋出血	1	0	0
		テール筋出血	9	0	0
		頭部の放線菌病	13	0	0
		筋血腫	0	0	1
		筋脂肪変性	0	0	3
		潤滑油汚染(枝一部)	0	0	12
		炎症産物汚染（頭部）	2	0	0
		炎症産物汚染(テール)	7	0	0
		腹膜の膿瘍	41	0	50
		胸膜の膿瘍	3	0	116
		小　計	717	3	1,410
		疾病件数に占める割合（%）	2.46	8.33	0.93
	骨	化膿性骨炎（骨膿瘍）	2	0	101
		骨折	13	0	28
		骨奇形	1	0	2
		尾咬症	0	0	101
		小　計	16	－	232
		疾病件数に占める割合（%）	0.05	－	0.15
	関節	関節炎	48	0	145
		関節膿瘍	2	0	18
		脱臼	6	0	1
		小　計	56	－	164
		疾病件数に占める割合（%）	0.19	－	0.11
		中　計	789	3	1,806
		疾病件数に占める割合（%）	2.71	8.33	1.19

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
その他	皮下織	皮下膿瘍	75	0	662
		皮下出血	3,944	3	3,920
		皮下水腫	1,986	2	149
		皮下の腫瘍	1	0	1
		皮下の変性	14	0	88
		小　計	6,020	5	4,820
		疾病件数に占める割合（%）	20.66	13.89	3.17
	皮膚	皮膚の腫瘍	0	0	1
		小　計	−	−	1
		疾病件数に占める割合（%）	−	−	−
	乳房				
		小　計	−	−	−
		疾病件数に占める割合（%）	−	−	−
	内臓全部	抗酸菌症	0	0	1,754
		胸腹膜炎	4	0	1,589
		小　計	4	−	3,343
		疾病件数に占める割合（%）	0.01	−	2.20
		中　計	6,024	5	8,164
		疾病件数に占める割合（%）	20.67	13.89	5.37

	部位	疾病名称	牛	とく	豚
その他	その他	大腸の一部廃棄	589	0	0
		精密検査：内臓全廃	9	0	16
		抗菌性物質残留(枝肉)	2	0	2
		抗菌性物質残留(腎)	3	0	2
		抗菌性物質検査内臓	7	1	625
		精密検査；胃腸全廃	2	0	0
		小　計	612	1	645
		疾病件数に占める割合（%）	2.10	2.78	0.42
		中　計	612	1	645
		疾病件数に占める割合（%）	2.10	2.78	0.42

エ　畜種別主要臓器別一部廃棄内訳

(i)　牛

年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
検査頭数		24,218	23,706	23,463	21,113	21,722	23,312	23,341
肺	件数	2,852	4,199	2,908	2,383	2,747	3,830	3,652
	廃棄率（%）	11.78	17.71	12.39	11.29	12.65	16.43	15.65
心臓	件数	509	497	513	495	548	682	784
	廃棄率（%）	2.10	2.10	2.19	2.34	2.52	2.93	3.36
胃腸	件数	1,621	2,422	2,741	2,209	1,952	2,627	3,623
	廃棄率（%）	6.69	10.22	11.68	10.46	8.99	11.27	15.52
肝臓	件数	12,619	11,622	10,997	9,338	9,032	10,638	10,692
	廃棄率（%）	52.11	49.03	46.87	44.23	41.58	45.63	45.81
腎臓	件数	667	694	715	851	1,142	1,480	2,041
	廃棄率（%）	2.75	2.93	3.05	4.03	5.26	6.35	8.74

廃棄率(%)=廃棄件数／検査頭数×100

(ii)　とく

年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
検査頭数		20	48	36	21	15	17	12
肺	件数	8	27	22	10	6	6	5
	廃棄率（%）	40.00	56.25	61.11	47.62	40.00	35.29	41.67
心臓	件数	－	2	2	－	1	2	3
	廃棄率（%）	0.00	4.17	5.56	0.00	6.67	11.76	25.00
胃腸	件数	4	13	27	20	13	16	11
	廃棄率（%）	20.00	27.08	21.00	95.24	86.67	94.12	91.67
肝臓	件数	5	22	21	16	6	10	7
	廃棄率（%）	25.00	45.83	58.33	76.19	40.00	58.82	58.33
腎臓	件数	2	11	5	851	4	1	1
	廃棄率（%）	10.00	22.92	13.89	4052.38	26.67	5.88	8.33

廃棄率(%)=廃棄件数／検査頭数×100

(iii)　豚

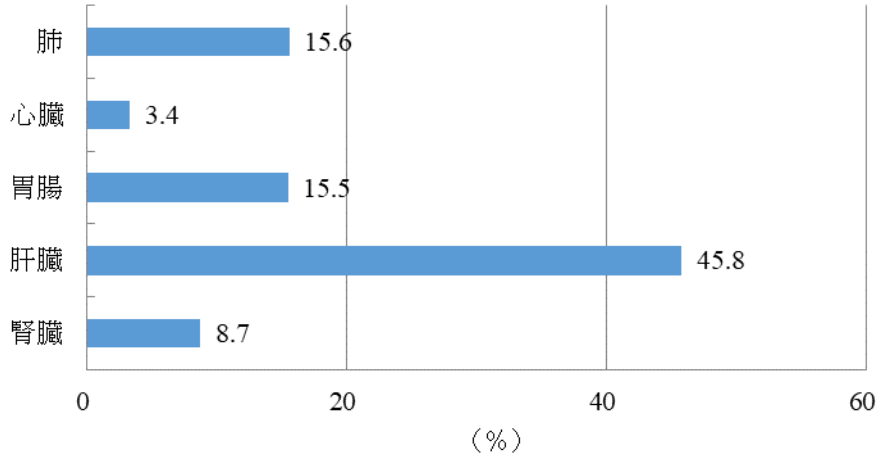
年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
検査頭数		137,183	131,181	137,529	133,478	132,826	124,203	128,898
肺	件数	51,260	44,180	46,956	39,735	43,839	49,206	49,863
	廃棄率（%）	37.37	33.68	34.14	29.77	33.00	39.62	38.68
心臓	件数	7,653	7,224	7,845	8,178	9,068	7,283	7,374
	廃棄率（%）	5.58	5.51	5.70	6.13	6.83	5.86	5.72
胃腸	件数	4,445	4,990	5,941	5,525	4,960	5,958	5,816
	廃棄率（%）	3.24	3.80	21.00	4.14	3.73	4.80	4.51
肝臓	件数	78,468	60,403	65,670	61,396	65,588	65,886	70,443
	廃棄率（%）	57.20	46.05	47.75	46.00	49.38	53.05	54.65
腎臓	件数	1,070	1,165	1,362	1,983	3,013	3,469	5,370
	廃棄率（%）	0.78	0.89	0.99	1.49	2.27	2.79	4.17

廃棄率(%)=廃棄件数／検査頭数×100

オ　畜種別一部廃棄状況

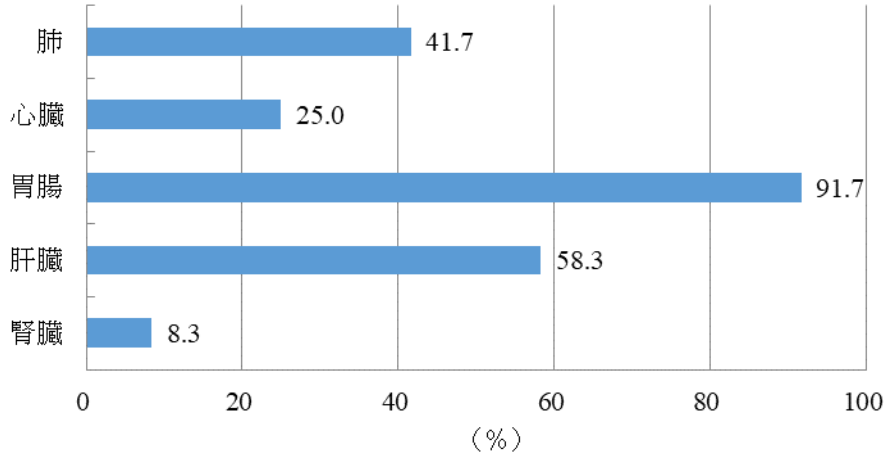
(i) 牛

肝疾患が全検査頭数(23,341 頭)の 45.8%に認められた。次に肺疾患が 15.6%で認められた。



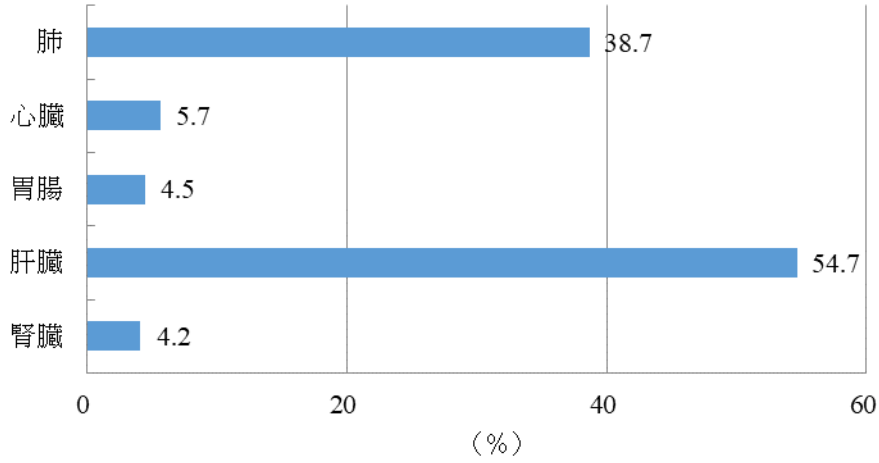
(ii) とく

胃腸疾患が全検査頭数(12 頭)の 91.7%で認められた。次に肝疾患が 58.3%で認められた。



(iii) 豚

肝疾患が全検査頭数(128,898 頭)の 54.7%に認められた。次に肺疾患が 38.7%で認められた。



カ　年度別全部廃棄件数

(i) 総数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
計	86	192	184	232	162	163	177
豚丹毒	5	43	41	44	6	9	2
膿毒症	4	8	6	12	34	17	39
敗血症	45	83	74	105	74	86	68
尿毒症	-	3	1	1	-	1	-
黄疸	2	6	5	15	3	1	5
水腫	2	-	3	1	1	1	2
腫瘍	5	4	2	1	2	-	-
牛白血病	22	41	52	49	40	47	59
白血病	-	3	-	3	2	1	2
炎症	1	1	-	1	-	-	-
中毒諸症	-	-	-	-	-	-	-
サルモネラ症	-	-	-	-	-	-	-

(ii) 牛・とく

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
計	38	70	66	78	54	63	83
膿毒症	2	3	1	1	4	1	1
敗血症	4	12	8	20	9	13	21
尿毒症	-	2	-	1	-	1	-
黄疸	2	5	-	5	-	-	-
水腫	2	-	3	1	-	1	1
腫瘍	5	4	2	1	1	-	-
牛白血病	22	41	52	49	40	47	59
白血病	-	2	-	-	-	-	1
炎症	1	1	-	-	-	-	-
中毒諸症	-	-	-	-	-	-	-

(iii) 豚

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
計	48	122	118	154	108	100	94
豚丹毒	5	43	41	44	6	9	2
膿毒症	2	5	5	11	30	16	38
敗血症	41	71	66	85	65	73	47
尿毒症	-	1	1	-	-	-	-
黄疸	-	1	5	10	3	1	5
水腫	-	-	-	-	1	-	1
腫瘍	-	-	-	-	1	-	-
白血病	-	1	-	3	2	1	1
炎症	-	-	-	1	-	-	-
中毒諸症	-	-	-	-	-	-	-
サルモネラ症	-	-	-	-	-	-	-

(4) 試験室検査

ア　病理検査

(i) 精密検査

精密検査結果

	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
白血病	牛	-	2(2)	-	-	-	-	-(1)
	豚	-	1(1)	-	2(3)	2(2)	1(1)	1(1)
	計	-	3(3)	-	2(3)	2(2)	1(1)	1(2)
牛白血病	牛	24(22)	41(41)	53(52)	49(49)	40(39)	47(47)	60(59)
腫瘍	牛	6(5)	4(4)	2(2)	1(1)	1(1)	-	2(-)
	豚	-	-	-	1(-)	1(1)	1(-)	-
	計	6(5)	4(4)	2(2)	2(1)	2(2)	1(-)	2(-)
高度の黄疸	牛	3(2)	4(4)	-	-	-	-	-
	豚	-	1(1)	-	-	-	-	-
	計	3(2)	5(5)	-	-	-	-	-
敗血症	牛	5(4)	8(7)	-	-	-	-	-
	豚	49(41)	45(35)	-	1(-)	3(1)	6(2)	1(-)
	計	54(45)	53(42)	-	1(-)	3(1)	6(2)	1(-)
豚丹毒（疣心型）	豚	5(5)	15(15)	-	-	-	-	-
炎症	牛	1(1)	1(1)	-	-		-	-
	豚	-	-	-	1(1)	-	-	-
	計	1(1)	1(1)	-	1(1)	-	-	-
サルモネラ症	豚	-	-	-	-	-	1(-)	-
中毒	牛	-	-	-	-	-	-	1(-)

(　)内は全部廃棄頭数

(ii) その他の検査

上記疾病以外でも，必要に応じて炎症・変性等が疑われる部位の病理組織検査を行った(4 件)。また，保健所等から，食品の苦情品等についての組織検査依頼はなかった。

イ　微生物検査

(i) 精密検査

敗血症

牛 23 頭，豚（豚丹毒を除く）58 頭について検査を実施し，牛 21 頭，豚 47 頭を敗血症と診断し，全部廃棄処分とした。

豚では，主に *Streptococcus suis* が分離された。

豚丹毒

豚 9 頭について検査を実施し，うち 2 頭を豚丹毒と診断し，全部廃棄処分とした。

精密検査結果

	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
敗血症	牛	5(4)	13(12)	12(8)	20(20)	9(9)	16(13)	23(21)
	豚	46(39)	86(71)	77(66)	98(85)	73(65)	83(72)	58(47)
	計	51(43)	99(83)	89(74)	118(105)	82(74)	99(85)	81(68)
豚丹毒	関節炎型	-(-)	5(3)	7(3)	37(19)	14(3)	19(5)	7(1)
	心内膜炎型	5(5)	38(38)	29(29)	21(21)	3(3)	-(-)	-(-)
	蕁麻疹型	-(-)	2(2) *3	11(9) *3	4(4) *8	-(-)	8(4) *1	2(1) *6
	計	5(5)	45(43) *3	47(41) *3	62(44) *8	17(6)	27(9) *1	9(2) *6
膿毒症	牛	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	豚	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	計	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
サルモネラ症	豚	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	1(-)	-(-)
牛白血病	牛	1(1)	2(2)	1(-)	11(11)	-(-)	-(-)	-(-)

(　)内は全部廃棄頭数

*　と殺禁止頭数

(ii) 市場内衛生対策関連検査

枝肉等のふき取り検査

牛・豚枝肉について，一般細菌数，大腸菌群数，カンピロバクター及び腸管出血性大腸菌の微生物汚染調査，牛枝肉について脳・せき髄組織による汚染の有無を確認するためのグリア繊維性酸性タンパク(GFAP)残留量調査を行った。

検査結果については随時市場の衛生管理担当者へ情報提供を行った。なお，牛の枝肉 1 件から腸管出血性大腸菌，豚の枝肉 12 件からカンピロバクターを検出したため，作業手順の見直しや枝肉の衛生的取扱いについて指導を行った。

枝肉等ふき取り検査結果

検体名		検体数	陽性数
計		922	13
牛枝肉	一般細菌数	201	・
	大腸菌群数	201	・
	カンピロバクター	80	－
	サルモネラ	80	－
	腸管出血性大腸菌	80	1
	グリア繊維性酸性タンパク※1	80	－
豚枝肉	一般細菌数	40	・
	大腸菌群数	40	・
	カンピロバクター	40	12
	サルモネラ	40	－
	腸管出血性大腸菌	40	－

(　)内は陽性検体数

※1　特定部位である脳・せき髄組織による汚染の有無を確認するための検査

ウ　理化学検査

(i)　精密検査

高度の黄疸

豚7頭について実施し，うち5頭を高度の黄疸として全部廃棄処分とした。

高度の水腫

牛1頭及び豚1頭について実施し，牛1頭及び豚1頭を高度の水腫として全部廃棄処分とした。

精密検査実施頭数

	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
尿毒症	牛	-	2(2)	1(1)	1(1)	-	1(1)	-
	豚	-	1(1)	1(1)	1(-)	1(-)	-	-
	計	-	3(3)	2(2)	2(1)	1(-)	1(1)	-
黄疸	牛	3(2)	4(4)	-	6(5)	4(-)	-	-
	とく	-	1(1)	-	-	-	-	-
	豚	-	1(1)	6(5)	11(10)	4(3)	2(1)	7(5)
	計	3(2)	6(6)	6(5)	17(15)	8(3)	2(1)	7(5)
水腫	牛	3(2)	-	3(3)	1(1)	-	1(1)	1(1)
	豚	-	-	-	-	1(1)	-	1(1)
	計	-	-	-	-	1(1)	1(1)	2(2)
中毒諸症	牛	1(-)	-	-	-	-	-	-
	豚	-	-	-	1(-)*	-	-	-
	計	1(-)	-	-	1(-)*	-	-	-

(　)内は全部廃棄頭数

*　全身性炎症にて全部廃棄

(ii) 病畜等の血液生化学検査について

病畜搬入時及び一般畜の生体検査時に異常を認めた場合には，必要に応じ通常の生体検査と併せて体温測定や採血を行い，血液塗沫の鏡検のほか血球検査，血液生化学検査を実施した(血球計数装置，血清生化学自動分析装置等を使用)。

主な血液生化学検査項目はBUN，BIL，GOT，TP，ALBであり，症例に応じてその他の項目の測定を実施した。

令和元年度には高度の黄疸(牛 8 頭)，尿毒症(牛 3 頭)及び熱性諸症(牛 1 頭)と診断し，と殺禁止とした。

(5) 伝達性海綿状脳症(TSE)スクリーニング検査等

伝達性海綿状脳症(TSE)スクリーニング検査の検査結果はすべて陰性であった。

月別検査頭数

月	生後24ヶ月齢以上の牛のうち生体検査において原因不明の運動障害，知覚障害，反射異常，意識障害等の何らかの神経症状又は全身症状を示す牛	その他の牛	総検査頭数
4	1	-	1
5	-	-	-
6	1	-	1
7	1	-	1
8	2	-	2
9	3	-	3
10	-	-	-
11	1	-	1
12	1	-	1
1	1	-	1
2	-	-	-
3	-	-	-
合計	11	-	11

3 市場内の衛生対策

(1) 衛生監視

腸管出血性大腸菌等食中毒菌の枝肉等汚染防止のために，市場内の施設環境と作業工程における衛生レベルの向上を目的として，衛生監視を年 252 回実施した。また，市場内の衛生監視に用いる監視項目についての見直しも適宜行い，指導指摘箇所については，写真添付による指導書を用いて指導を実施した。

(2) 市場関係者の衛生指導

とさつ及び解体作業の衛生面の向上を図るため，枝肉のふき取り検査結果を参考に作業衛生責任者や作業従事者に対し衛生指導を行った。

(3) 衛生講習会

市場内の作業従事者等を対象として，衛生意識の向上を図るため，衛生監視結果を基にした衛生的作業方法及び施設の清掃，保守点検の徹底等について衛生講習会を実施した。

4 残留有害物質の排除

(1) 残留動物用医薬品検査

と畜検査において，動物用医薬品残留の可能性があると判断した獣畜（病畜，精密検査畜，起立不能畜，とく，術創・注射痕を認めたもの，著しい発育不良及び削痩を呈するもの等）を対象に，簡易検査を実施した(牛 562 頭，とく 11 頭，繁殖用豚 50 頭及び肉用豚 680 頭の計 1,303 頭)。検査法は直接ディスク法※を実施し，特に当該検査法で検出が難しいセファゾリン等の残留を疑う検体については，追加で液体クロマトグラフ質量分析計による簡易一斉分析検査を実施した。これらの検査の結果，牛 19 頭，とく 1 頭，肉用豚 5 頭の合計 25 頭で陽性を示した。

簡易検査陽性の獣畜については，生産者及び担当獣医師に薬剤の使用等についての事実確認を行うとともに，機器分析又は分別推定法による検査を実施した。

この結果，牛 2 頭及び肉用豚 2 頭の筋肉並びに牛 11 頭，とく 1 頭及び肉用豚 2 頭の腎臓から，食品衛生法における残留基準値を超える動物用医薬品が検出されたため，同法に基づき当該部位の廃棄措置を行った。

また，必要に応じ再発防止のため生産者又は担当獣医師に対して投薬歴の適正な申告を指導するとともに，家畜保健衛生所に情報提供を行った。

※ 直接ディスク法 : 腎臓にペーパーディスクを挟み込み一定時間放置した後，ディスクを試験菌を含む検査用平板(3 種類)上に置き 30℃で約 18 時間培養し，菌発育阻止円の有無により判定する方法。

残留動物用医薬品検査結果

			計	牛		とく		繁殖用豚		肉用豚	
				病畜	その他	病畜	その他	精密	その他	精密	その他
検査頭数			1,303	562		11		50		680	
				477	85	1	10	6	44	88	592
簡易検査陽性頭数			25	19		1		-		5	
				17	2	-	1	-	-	-	5
内訳	措置	筋肉（枝肉）廃棄	4	2	-	-	-	-	-	-	2
		腎臓廃棄	14	11	-	-	1	-	-	-	2
		合格	11	6	2	-	-	-	-	-	3
	産地	福岡県内	10	10	-	-	-	-	-	-	-
		福岡県外	15	7	2	-	1	-	-	-	5
	違反等※	食品衛生法違反	14	11	-	-	1	-	-	-	2
		薬事法違反	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		飼料安全法違反	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		法令違反不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		違反なし	11	6	2	-	-	-	-	-	3
	推定薬剤※	ペニシリン系	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		テトラサイクリン系	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		セフェム系	8	8	-	-	-	-	-	-	-
		アミノグリコシド系	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		マクロライド系	1	-	-	-	1	-	-	-	-
		その他の動物用医薬品	11	7	2	-	-	-	-	-	2

※違反，推定薬剤は重複あり

(2) 残留有害物質モニタリング検査

厚生労働省通知に基づき，福岡県内産を主とする一般畜について下表の項目についてモニタリング検査を実施した。豚 1 頭の筋肉及び豚 1 頭の腎臓から食品衛生法における残留基準値を超える薬剤が検出されたため，同法及び同通知に基づき当該部位の廃棄，原因究明，流通先を管轄する保健所及び生産者を管轄する家畜保健衛生所への通知等の措置を行った。

残留有害物質モニタリング検査結果

畜種	抗生物質（抽出ディスク法）			動物用医薬品					
				一斉分析法※1			PC 系・CF 系・TC 系検査法※2		
	検体数	陽性数		検体数	基準超過数		検体数	基準超過数	
		腎臓	筋肉		腎臓	筋肉		腎臓	筋肉
牛	20	-	-	20	-	-	10	-	-
豚	20	1	-	20	-	1	10	1	-
計	40	1	-	40	-	1	20	1	-

畜種	農薬※3	
	検体数	基準超過数
		筋肉
牛	10	-
豚	10	-
計	20	-

※1 一斉分析法 :ｱｻﾞﾍﾟﾛﾝ, ｲｿﾌﾟﾛﾁｵﾗﾝ, ｴﾄﾊﾟﾍﾞｰﾄ, ｴﾘｽﾛﾏｲｼﾝ, ｴﾝﾛﾌﾛｷｻｼﾝ, ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸, ｵﾌﾛｷｻｼﾝ, ｵﾙﾋﾞﾌﾛｷｻｼﾝ, ｵﾙﾒﾄﾌﾟﾘﾑ, ｵﾚｱﾝﾄﾞﾏｲｼﾝ, ｷｼﾗｼﾞﾝ, ｼﾞﾌﾛｷｻｼﾝ, ｽﾙﾌｧｷﾉｷｻﾘﾝ, ｽﾙﾌｧｸﾛﾙﾋﾟﾘﾀﾞｼﾞﾝ, ｽﾙﾌｧｼﾞｱｼﾞﾝ, ｽﾙﾌｧｼﾞﾐｼﾞﾝ, ｽﾙﾌｧｼﾞﾒﾄｷｼﾝ, ｽﾙﾌｧﾄﾞｷｼﾝ, ｽﾙﾌｧﾋﾟﾘｼﾞﾝ, ｽﾙﾌｧﾍﾞﾝｽﾞｱﾐﾄﾞ, ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｻｿﾞｰﾙ, ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｼﾋﾟﾘﾀﾞｼﾞﾝ, ｽﾙﾌｧﾒﾗｼﾞﾝ, ｽﾙﾌｧﾓｲﾙﾀﾞﾌﾟｿﾝ, ｽﾙﾌｧﾓﾉﾒﾄｷｼﾝ, ﾀﾞﾉﾌﾛｷｻｼﾝ, ﾁｱﾍﾞﾝﾀﾞｿﾞｰﾙ, ﾁｱﾑﾘﾝ, ﾁﾙﾐｺｼﾝ, ﾄﾘｸﾛﾙﾎﾝ, ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑ, ﾅﾘｼﾞｸｽ酸, ﾋﾟﾘﾒﾀﾐﾝ, ﾌｧﾑﾌｰﾙ, ﾌｪﾉﾌﾞｶﾙﾌﾞ, ﾌﾟﾘﾌｨﾆｳﾑ, ﾌﾙﾍﾞﾝﾀﾞｿﾞｰﾙ, ﾌﾙﾒｷﾝ, ﾏﾎﾌﾟﾗｼﾞﾝ, ﾏﾙﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ, ﾐﾛｻﾏｲｼﾝ, ﾒﾄｸﾛﾌﾟﾗﾐﾄﾞ, ﾒﾝﾌﾞﾄﾝ, ﾓﾈﾝｼﾝ, ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ, ﾚﾊﾞﾐｿﾞｰﾙ

※2 PC 系・CF 系・TC 系検査法 :ｵｷｼﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ, ｸﾛﾙﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ, ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ, ﾄﾞｷｼｻｲｸﾘﾝ, ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ, ｵｷｻｼﾘﾝ, ｸﾛｷｻｼﾘﾝ, ｼﾞｸﾛｷｻｼﾘﾝ, ﾅﾌｼﾘﾝ, ﾌｪﾉｷｼﾒﾁﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝ, ﾍﾞﾝｼﾞﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝ, ﾒｼﾘﾅﾑ, ｾﾌｧｿﾞﾘﾝ, ｾﾌﾛｷｼﾑ

※3 農薬 :当検査所で検体を採取し，環境局保健環境研究所へ検査を依頼したもの。

５． 輸出肉衛生証明

年度別輸出関連証明件数・頭数・重量

	香港			マカオ						タイ		
	豚肉			牛肉			豚肉			牛肉		
	件数	頭数	重量(kg)	件数	頭数	重量(kg)	件数	頭数	重量(kg)	件数	頭数	重量(kg)
H28	48	769	8,441.8	168	168	4,704.0	8	125	628.7	11	11	4,055.6
H29	42	791	8,034.7	256	256	7,430.1	31	813	4,620.1	14	14	576.7
H30	46	675	8,109.1	366	366	12,328.9	26	1,447	6,824.3	3	3	807.7
R1	66	827	12,213.6	423	423	14,641.7	39	3,317	14,641.7	4	4	840.7

	ミャンマー			ベトナム						台湾		
	牛肉			牛肉			豚肉			牛肉		
	件数	頭数	重量(kg)	件数	頭数	重量(kg)	件数	頭数	重量(kg)	件数	頭数	重量(kg)
H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
H29	11	11	808.4	-	-	-	-	-	-	86	86	9,532.3
H30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	156	156	23,917.0
R1	-	-	-	5	5	232.9	-	-	-	625	625	64,798.8

Ⅲ章　調査・研究

1 調査・研究発表状況

年度別調査・研究発表状況

年度	題名	発表学会名 その他	実施者 （○印発表者）
H23	福岡市中央卸売市場食肉市場に搬入された豚のカンピロバクター保菌状況調査について	平成23年度食品衛生研究発表会	○馬場由紀子，内有希 小西智子，小島和也 丸山浩幸
	食肉等に関する苦情相談事例	平成23年度食品衛生研究発表会	○田中明希子，山脇正己 筑網麻里絵，井崎進一
	牛・豚の糞便および市販鶏肉におけるESBL産生菌の実態調査	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 第31回微生物部会研修会	○小西智子，内有希 馬場由紀子，丸山浩幸 倉成武裕
	Propidium monoazide(PMA)を用いた豚丹毒菌の生･死菌判別方法の検討	九州食肉衛生検査所協議会 平成23年度食肉衛生発表会	○小西智子，内有希 小島和也，馬場由紀子 丸山浩幸，倉成武裕
	免疫染色が診断に有効であった牛の頭頂部腫瘤	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第63回病理研修会 平成23年度食肉衛生発表会	○田中明希子，荒木航 筑網麻里絵，山脇正己 井崎進一
H24	牛の胸腔内および腹腔内の腫瘤	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第65回病理研修会	○田中明希子
H25	牛の腹腔内の腫瘤	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第66回病理研修会	○田中明希子
	福岡市中央卸売市場食肉市場の生産及び加工施設における衛生監視の強化について	平成25年度食品衛生研究発表会	○内 有希，馬場由紀子 篠原智子，丸山浩幸
	と畜場における衛生監視指導方法の検討	九州食肉衛生検査所協議会 平成25年度食肉衛生発表会	○内 有希，馬場由紀子 篠原智子，丸山浩幸
H26	牛の腹腔内腫瘤	全国食肉衛生検査所協議会病理部会 第69回病理研修会	○荒木航
	LC/MS/MSを用いた簡易一斉スクリーニング法による残留動物用医薬品の検出事例について	九州地区食肉衛生検査所協議会 平成26年度食肉衛生発表会	○上田英弘，岡村啓吾 山﨑まゆ，徳田三郎
H27	福岡市中央卸売市場食肉市場に搬入された牛白血病ウイルス感染牛の遺伝子型別調査	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会 九州食肉衛生検査所協議会 平成27年度食品衛生研究発表会	○大川有希，藤田 淳 荒木夏世，池見由希 小玉慎二，吉田英弘
	ふき取り検査結果と解体後検査における疾病との関連性	平成27年度獣医学術九州地区学会 平成27年度食品衛生研究発表会	○藤田淳，大川有希 荒木夏世，吉田英弘
	動物用医薬品一斉試験法Ⅲの改良及び妥当性評価について	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会 平成27年度食肉衛生発表会	○廣田淳一，岡村啓吾 松田青葉，上田英弘 山﨑まゆ
H28	QuEChERS法キットを用いた動物用医薬品の迅速一斉分析法の検討	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会	○岡村啓吾，廣田淳一 松田青葉，上田英弘
	食肉市場のISO22000導入に係る食肉衛生検査所の取組み	九州食肉衛生検査所協議会 平成28年度食品衛生研究発表会	○荒木夏世，藤田淳 大川有希，小玉慎二 吉田英弘
H29	食肉衛生検査所における動物用医薬品検査状況について	平成29年度食品衛生研究発表会	○松田青葉，篠崎亜也子 岡村啓吾，上田英弘

R1	Clostridium属菌が検出された牛と豚の症例	令和元年度九州地区食肉衛生検査所協議会大会	○近藤芳和子，藤代敏行，河野恵子，庄嶋貴之